

(様式)

令和2年度 学校評価 学校関係者評価書

学校名	三木市立自由が丘東小学校
-----	--------------

1 学校教育目標

心豊かに 健やかに 夢に向かって学び続ける子の育成

2 本年度の重点目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 保護者や地域の願いを大切にしたい信頼される安全で安心な学校づくり 2 互いに認め合い、助け合いながら共に伸びようとする仲間づくり 3 基礎的・基本的な力の定着、考え合い話し合う学びの場づくり 4 児童一人一人に寄り添い、個々の課題に応じたきめ細かな指導の場づくり 5 教職員の同僚性を高め、協働的に取り組む職場づくり
--

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習習慣ならびに基礎基本の定着のための楽しくわかりやすい学びの場づくり ○ 言語活動を取り入れ、考え合い話し合いのできる学びの場づくり ○ 予習を取り入れた理解を深めるための学びの場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年度の前半は、コロナ禍における休校措置や、学習活動の制限を受け、子どもの実態をよく観察しながら、学習の遅れや学習習慣を無理なく戻すことを大切にしたい。 ○ 休校期間中は、家庭でできる学習をポスティングしたり、ホームページで発信したりした。学校再開後は、感染症対策をとりながら、子どもたちの関係性の中で、自分の考えを表現できる活動を模索した。年間を通して、基礎基本や学習習慣はおおむね定着したと考える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感染症対策を講じながら模索してきた、子どもたちの主体的で深い学びに向かうための学習活動を整理する。また、オンライン学習ができる環境を整える。休校の事態に陥っても、子どもの学びを保障できるようにする。 ○ 子どもとの関係性や身体性を基本としながら、授業の中に、タブレット学習を柔軟に位置づける。そして、GIGAスクール時代に対応した個別最適化学習を模索し、深い学びに向かう授業づくりを目指す。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事の工夫 ○ 児童会活動の工夫 ○ 体験学習の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容や練習時間の設定を工夫して運動会や音楽会の代替行事を実施し、充実感や行事を通じた成長を感じとらせることができた。 ○ 自然学校・修学旅行・秋の校外学習・持久走記録会などを実施した。児童会が中心となり、学校行事の計画進行を行った。できることとできないことを取捨選択しながら臨機応変に取り組んだ。 ○ コロナ禍においても可能な範囲で、環境体験学習や三木のふるさと学習等の充実にも努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感染症対策を講じながら、児童の意欲や満足感を向上させる行事を実施する。 ○ 学びの深まる校外学習等を実施する。 ○ 今年度の活動を踏まえて年間計画を立て、見通しをもって活動できるようにする。 ○ コロナ禍における可能な環境体験学習、ふるさと学習のさらなる充実を図る。
道徳・人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳教育の充実 ○ 思いやりに満ちた仲間づくりの推進 ○ 人権意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年度当初に立てた指導計画をもとに学習に取り組んだ。 ○ 仲間づくりは学級経営が大きく関わることから、学級経営案をもとにした温かい学級づくりを行った。 ○ 密を避けるため、学校での親子人権学習に代え、教材に取り組んだ成果を家庭に発信することで、人権意識の向上を図った。 ○ 新型コロナウイルス感染症に関わる差別や偏見をなくす指導・取組を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業力向上のため、さらなる研究と昨今の課題を反映した心に響く授業づくりを行う。 ○ 児童同士のトラブルや問題を解決するための、多くの目での児童の見守り、児童と向き合う時間の確保をする。 ○ 全ての教育活動の根幹に人権を守る視点を据え、差別を絶対に許さないメッセージを伝え続けていく。 ○ 教師自身の人権意識の確立を図る。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 支援の必要な児童の情報共有 ○ 支援を要する児童の理解と支援の充実 ○ 家庭や関係機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援教育校内委員会を定期的に開催し、個別の教育指導計画をもとにした支援について共通理解する機会を設けた。 ○ 必要に応じてケース会議を設けたり、家庭と関係機関(教育相談・通級指導等)をつなぐような働きかけを行ったりした。 ○ 関係機関・教師間の連携をもとに、児童に合わせた手だての検討や実践に努め、インクルーシブ教育システムの構築に努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 必要に応じてケース会議を開き、児童に応じた支援方法と環境づくりの検討を継続して行う。 ○ 関係機関との連携、教師間の連携をもとにした、インクルーシブ教育システムの構築を継続して行う。
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣の確立 ○ いじめ・不登校に関する取組の充実 ○ 児童の内面理解推進のための取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活目標に「あいさつ」の文言を取り入れ、児童が取り組むことができる活動を行うことで、児童のあいさつへの意識を高めた。 ○ 日頃の生活指導(あいさつ・ろうかを走らない・下校態度等)について教職員間の共通理解を図った。 ○ 配慮を要する児童への関わりは、ケース会議を実施し、家庭と学校、学校内の密な連携をとることで、児童を支援した。 ○ 心のアンケートやカウンセリングにより児童の内面理解に努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「あいさつ」の励行については、教師が子どもの手本となるよう率先垂範に努め、今後も活動の工夫を続ける。 ○ 地域の方へのあいさつを増やすことを今後の課題として、教職員間で共通理解し、指導を続ける。 ○ いじめ・不登校ゼロに向けて、アンケートやケース会議等、取組を継続する。 ○ 児童の内面理解のための教職員間の密な連携を行う。
保健・安全 防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校生活全般における感染症対策への取組 ○ 心身の健康に関する意識の向上 ○ 学校施設点検・交通安全指導の徹底 ○ 防災教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナ感染症対策として、学校生活を安心して送るための「新しい生活様式」自由が丘東小マニュアルを作成した。例えば、朝登校してきたらソーシャルディスタンスを守って順番に並び、玄関前ではアルコール消毒をしてから教室へあがるなど、また行事ごとに感染症対策を検討し実行した。 ○ 本校の健康課題である姿勢改善のため、今年、腰痛タイムを導入。 ○ 安全面では毎月定期的な施設の安全点検を行った。 ○ 三木市防災マニュアルを確認しながら避難訓練を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 取組がマンネリ化しないよう工夫しながら感染症対策(手洗い、密を避けるなど)の徹底を呼びかける。 ○ 腰痛タイムで気持ちを切り替え、よい姿勢で授業に臨む習慣を継続する。体力づくりのため外遊びを啓発する声かけや体育委員会からの活動を継続する。児童の健康状態について全職員が共通理解をするよう努める。 ○ 定期的な安全点検を行い、異常個所については即対処する。 ○ 様々な想定で避難訓練を実施し、教職員間の連携を図る。
教職員の研修と 資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新学習指導要領を踏まえた授業展開の探求 ○ OJTIによる学校の教育力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍であったため、一人一研究授業や講師を招いた研修会等は実施を控えた。 ○ 教師がお互いの得意分野を伝授する「ミニ講座」を計画し、実施した。「GIGAスクール構想」のもと、今年度一人一台タブレット端末が導入された。「Society 5.0」時代を生きる子どもたちの学びを保障するため、タブレット活用についての研修を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルスの感染状況を踏まえたうえで、来年度は一人一研究授業は行う方向で。 ○ 「ミニ講座」は、来年度は縮小して不定期で実施する。 ○ タブレットを活用した様々な教育活動について、その効果的なあり方を探っていく。
家庭・地域との 連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭・地域との連携強化 ○ 学校からの情報発信ならびに家庭・地域からの声を大切にしたい開かれた学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月、学校通信、学年通信等を発行した。 ○ 新型コロナウィルス感染防止の観点からオープンスクールの実施は控えたが、運動会、音楽会については規模を縮小した形で開催し、子どもたちの活動の様子をホームページ等に掲載した。 ○ 今年度も公民館での作品展示を行っていただいた。 ○ 独自で多様なPTA活動が推進された。(セーフティリンク配布、ウェブベルマーク導入、マジックショー、とんど集会等) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウィルスの感染状況を踏まえ、保護者や地域の方、児童にとって魅力があり励みとなるオープンスクールの開催を目指す。 ○ 地域の良さを学ばせる機会を設ける。 ○ より有益な情報提供となるための(個人情報取扱いに注意した)「学校ホームページ」の随時更新、積極的な情報発信に努める。

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

<p>【自己評価方法は適切である】</p> <p>23の評価項目と27の取組(達成)の状況、さらに41項目にわたる具体的な評価内容ならびに数値目標等達成の目安を適切に設定され、評価されている。児童・保護者・教職員アンケートの実施による評価結果や具体的な取組・実施回数もあげられており、自己評価方法は適切である。</p>

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
<p>【評価Aにすべきである】</p> <p>新型コロナウイルス感染症防止のため、年度初めの休校期間中でも家庭学習教材のポスティングやホームページでの発信に積極的に取り組み、児童の学習習慣維持に努めた。その結果、「学校は反復練習などにより、読み・書き、計算などの定着を図っていますか」との保護者アンケートで97%の肯定的評価を得ている。また、学校再開後は、放課後がんばりタイム等による補充学習に力を入れている。学力は、一朝一夕に向かうものではなく、このような地道で継続した取組が必要であり、教職員の共通理解のもと、自信を持って現在の指導を継続されたい。</p> <p>また、児童一人1台与えられたタブレットを授業ならびに家庭学習で有効に活用できるよう研究、実践を進められたい。</p>
<p>【評価Aは適切である】</p> <p>コロナ禍の中ではあったが、児童会と教職員が一体となって感染症対策を施し開催したソーシャルディスタンス玉入れなどの運動会(東つ子オリンピック)や音楽会は、児童にとって生涯忘れることのない貴重な体験となったに違いない。その結果、保護者アンケートで「お子さんは、学校行事や学校での様々な活動を通して成長していると感じられますか」との保護者アンケートで99%の肯定的評価を得ている。また、オンライン会議として行われた児童会が主体となった登下校時にお世話になっている人の目の垣根隊へのお礼の会は感謝の心を育て地域とのつながりで大きな意味を持つ。引き続き達成感、成就感を味わえる場面を意図的に計画的に設定し、自尊心を一層育てられたい。</p>
<p>【評価Aとすべきである】</p> <p>「特別の教科 道徳」も3年が経過し、年間計画に沿って計画的に実施、評価されている。特筆すべき点は、児童アンケートにおける道徳教育・人権教育の全5つの質問項目で、昨年度に対して肯定的評価がすべて上昇し、特に「自分や友だちのよいことや頑張ったことを認め合っていますか」が6.7ポイントも上昇している。今年度は、コロナ禍で道徳にかかるとの全体研修が実施できなかったようだが、日々の授業実践記録等を通して教員間の相互研修を深め、授業力向上に努められたい。</p>
<p>【評価Bは適切である】</p> <p>特別支援委員会が定期的に開催され、支援の必要な児童にかかる情報共有等が密に行われている。保護者と教職員のみならず、関係機関との連携が大切なので、ケース会議や小中連絡会等できめ細かな情報共有に引き続き努められたい。</p> <p>昨年度も記載したが、特別支援教育にかかる教職員アンケートの質問項目がないので、来年度に向けてぜひ検討願いたい。</p>
<p>【評価Bは適切である】</p> <p>生活目標に「あいさつ」の文言を取り入れ、児童が取り組むことができる活動の結果、地域住民から「あいさつがよく出来ている」との話がよく聞かれる。また、きまりや約束の順守については、児童、保護者アンケートとも3年間にわたって肯定的評価が毎年増加している。特に保護者アンケートでは、3年間で6ポイントも増加しており、日ごろの教育活動等の成果だと感じる。気になる点は、「学校が楽しいですか」「お子さんは楽しそうに登校していますか」との児童、保護者アンケートでは、否定的評価が、若干ではあるが増加している。コロナ禍での学校生活が大きな要因であると思われるが、今後職員で状況分析し、改善を図られたい。</p>
<p>【評価Aは適切である】</p> <p>新型コロナ感染症対策として、「新しい生活様式」自由が丘東小マニュアルを作成し、児童、教職員が学校生活を安心して送るため、実践されたことは評価できる。また、本校の健康課題である姿勢改善のための腰痛タイムが導入されたが、継続して実践されたい。</p> <p>児童の登下校時の見守り活動を保護者や地域が協力してなされている。引き続き、PTAと連携して地域ぐるみで子どもを守る活動を啓発されたい。</p>
<p>【評価Bは適切である】</p> <p>新型コロナウイルスの影響で一人一研究授業は実施できなかったが、教職員がお互いの得意分野を伝授し合う「ミニ講座」を実施されたのは、新たな取組として評価でき、今後も継続して実施されたい。</p> <p>児童アンケート「先生は、話しやすく相談しやすいですか」保護者アンケート「学校は何でも相談しやすい雰囲気ですか」の質問で肯定的評価が昨年度に比べて児童が2ポイント、保護者が6ポイント増加しており、児童、保護者に寄り添った教員のきめ細かな関わりの結果と評価できる。</p>
<p>【評価Aは適切である】</p> <p>ほぼ毎日ホームページが更新され、情報発信に努められ、コロナ禍で訪れることができない保護者や地域住民にとって学校の活動のようすが良くわかり、評価できる。また、PTAによるセーフティリンク配布、ウェブベルマーク導入、マジックショー、とんど集会等が行われ、連携がより一層なされた。引き続きPTA・地域とともに歩む教育活動に取り組まされたい。</p>